

原発ゼロへ、新しい国づくりを

原発からすみやかに撤退し、 自然エネルギーへの転換を



日本共産党市議団の 第2回定例会報告



教育福祉常任委員 都市整備常任委員 総務常任委員
井坂しんや ねぎしかずこ 大村洋子

改選後、新しい構成となった市議会で日本共産党は3人の全員が一般質問をおこないました。その主な内容をご報告いたします。今回は13人の議員が質問に立ちましたが、そのうち3人が新人議員であったことも新しい議会を感じさせました。日本共産党は多くの方たちと力を合わせてよりよい市政をめざし全力をつくしていきます。いっそうのご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

日本共産党 井坂議員、ねぎし議員、大村議員が一般質問 原子力空母はほんとうに大丈夫？

迷走した市長答弁

井坂議員は、原子力空母の安全対策と事故の際の対応について質問。最初に「福島第1原発の事故を受け、原発の安全神話があったと思うか？」とたどしました。市長は、「安全神話は存在していない」と答弁。その後、市長は「安全神話は存在してはいけない」「安全神話の定義が分からない」と答弁をクルクル変え、海江田経産大臣や斑目原子力安全委員長などの発言を示すと、「そういう意味で言えば、安全神話があったと思う」と変わりました。



市長は安全神話を認めると原子力空母の安全対策についても安全神話の上に成り立っていることを認めることになると考えたのか、右往左往した答弁でした。

井坂議員は、福島原発事故を踏まえ、原子力空母や陸上関連施設の地震の耐震性、津波対策をしっかりと確認するよう市長に求めました。

原子力防災計画の抜本改定を

横須賀は原子力軍艦と、久里浜に原子力発電の燃料を作っている施設がありますので、

防災計画に原子力防災の計画があります。原子力防災の計画は原発所在しない都市にはほとんどない計画です。

福島第1原発の事故を受け、今後、国の原子力防災計画が大幅に改定されると思います。ただ、国も福島原発の事故が収束していないので、いつ頃、どんな内容での改定になるかははっきりしていませんし、原子力空母についてはどのような扱いになるかも不明な状況ですが、井坂議員は、国に対して積極的に働きかけるよう求めました。

市有地(緑地)の売却は、 みどりの保全に逆行

井坂議員は、馬堀3丁目にある市有地の馬堀民生寮跡地の売却について質問しました。

民生寮跡地は、面積5000㎡以上あり、その周辺の民有地を含めると約1万㎡の一団の緑が形成されています。

市は指定緑地制度で、市街化区域で500㎡以上の緑地を土地所有者に奨励金を出してまで保全をしてもらっています。それでいながら、市が持っている緑地は、売ってしまうというのですからつじつまが合いません。

市長からは「売ったお金で緑地の保全を進める」と珍答弁も飛び出しました。

みどりの保全は大事な方針、その点では市長と一致していると考えていましたが残念ではありません。

大村議員が地域住民とともに GNFを視察しました。

大村議員は、地域の方々と核燃料工場GNFを視察、安全対策などで意見交換をしました。



市議会で、ねぎし議員が質問

ねぎし議員は、久里浜地域にある核燃料製造工場GNF-Jが、工場内で放射性物質を漏らした事故について、事故報告を受けたときは、早急に公表するよう求めました。また、工場が低地に立地しており、津波対策などについても質問しました。

市長は「今回の震災を踏まえてGNFを対象とした訓練についても検討の必要がある」と答えました。

● 市議団が市議会報告会 ●

7月2日市議団は議会報告会を開きました。



放射能汚染に対する市民の不安に応えよ

きめ細かな測定と公表を

ねぎし議員は、福島原発事故の放射能に対する不安を解消するため、測定をきめ細かく実施するよう求めました。市長と教育長は「検討する」との答弁。その後、市立小・中学校全校、市内の保育園・幼稚園や児童施設、市立の高等学校・養護学校・ろう学校などの校庭や園庭、公園での地表の放射線量を測定しました。学校や公園のプール水、学校給食の食材などについても測定されます。この結果は、市のホームページなどでも公表されています。

下水汚泥も放射能汚染、 焼却灰は安全保管を

市の下水汚泥の焼却灰も放射能汚染が判明。市民に影響を与えない保管の徹底と、保管費用を原因者に求めるようたどしました。保管場所となっている浄化センターでは、放射線の測定結果に心配はないこと、また、費用は国などに請求していきたいと、上下水道局長の考えが示されました。

障がい者の就労支援強化を

鎌倉でA型事業所をやっている人から、「逗子や葉山、鎌倉の人は交通費の補助が出ているのに、横須賀の人は出ていない。なんとかならないか」という相談がありました。障がい者のA型事業所は鎌倉には4事業所もあり、70人が働いています。ところが横須賀には一つもありません。A型事業所とは雇用契約を結んでいる事業所のことです。



遅れを取り戻す積極提案

横須賀市にも「障害者雇用奨励金制度」という就労支援の制度があり、障がい者を雇うとその事業者月に1か月4万円の補助が支給したり、事業所に通う時の交通費を補助したりしていますが、このどちらからも対象外とされているのが「就労継続支援A型」事業所への支援です。大村議員はここに焦点をあて、「横須賀も交通費補助を出すべきではないか。」と積極的な提案をしました。

「官僚」顔負けの官僚的答弁

ところが、市長は「雇用契約を結んでいることから交通費の補助対象でない。」という

今の要綱通りの冷たい答弁でした。そこを変えてほしいと提案しているのに官僚的な答弁はかみ合いません。

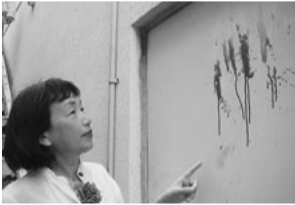
市長の本気度が試される 障がい者への就労支援

市長は「交通費の補助がないため本市の障がい者が就労の場から弾かれているとは言えない。」とも強弁しましたが、支援への本気度が疑われる答弁です。

来年度には岩戸養護学校からも新たな卒業生が誕生します。どうやったら、もっと障がい者が働きやすくなるのか、もっと真剣に考えるべきです。引き続き頑張ってまいります。

米兵犯罪に厳しい対応を

前市政より大きく後退



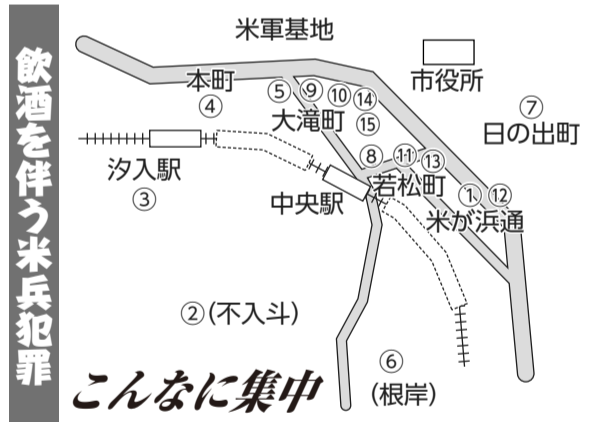
ねぎし議員（事件現場にて）

ねぎし議員は、吉田市長になって米兵犯罪に対し口頭要請で済ませている問題を取りあげました。市長は事件に人的被害があるかなどで軽重をつけており、飲酒を起因とする殺人事件が起こっていないから、文書などの厳しい対

応は必要ないと答弁するなど、前市政より大きく後退しています(下表・地図参照)。これでは事件を未然に防止することができません。

チェンジしたのは市長の姿勢

以前は市長自身も「無期限の飲酒規制」を訴えていたのではないかとただすと、市長は日本人でもお酒を飲んで、事件を起こしているから、米兵だけを無期限に禁止するのは正しいか、疑問があるなどと述べ、自身の主張をチェンジしました。



発生日	事件	米軍への対応
① 06年1月	殺人	文書抗議
② 06年1月	建造物侵入	文書抗議
③ 06年4月	住居侵入	文書抗議
④ 06年12月	住居侵入	口頭要請
⑤ 07年1月	無免許飲酒当て逃げ	文書要請
⑥ 07年8月	暴行	口頭要請
⑦ 07年12月	暴行	口頭抗議
⑧ 08年6月	暴行	口頭要請
⑨ 09年9月	住居侵入銃刀所持	口頭要請
⑩ 10年2月	器物損壊	口頭要請
⑪ 10年6月	器物損壊	口頭要請
⑫ 10年11月	住居侵入	口頭要請
⑬ 11年1月	窃盗	口頭要請
⑭ 11年5月	器物損壊	口頭要請
⑮ 11年7月	窃盗	口頭要請

被災地石巻市へ

ボランティア活動に参加して——井坂しんや

ボランティア活動をした石巻市は、今も被災した当時の状況がそのまま残っているところが多く、避難場所で生活をしている方が多くいらっしゃいました。避難されている方たちは、日々暮らすための買い出しなどもできず、支援物資に頼るしかない状況のようでした。

2泊3日の経験でしたが、私にとっては大変貴重なものとなりました。泥出し作業をしているときに通ったかかった地元の人は、「ありがとうね。」「体に気をつけてね。」など、声をかけてくれましたし、被災した状況なども話してくれました。

「ボランティアに行っても力仕事はできないから…」という言葉をよく聞きます。しかし、支援活動は力仕事だけではありません。「支援するぞ」と意気込んでいくよりも少し肩の力を抜いて、行くことが大事ではないか

と感じました。

まだまだ支援が必要です

また8月2日から4日まで井坂・大村議員が数名の方々と共にでかけます。支援物資と一緒に行く方も募集します。その時はみなさんのご協力よろしくお願い致します。



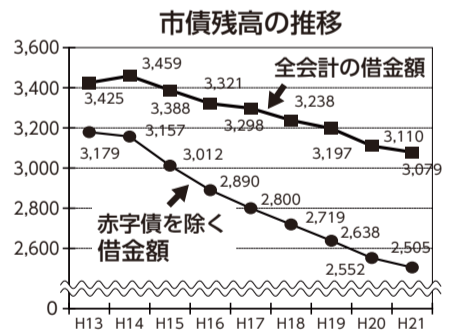
やる気も、正義感もない

また、日本人が深夜、米軍基地周辺において飲酒による事件を起こしているというなら、件数を示すよう求めると、市長は警察に問い合わせたいと答弁。市からの問い合わせでも警察からはそんなデータが得られず、回答不能に。調べもしないでその場しのぎの答弁をする市長に米兵犯罪をなくそうという熱意も正義感も感じられません。

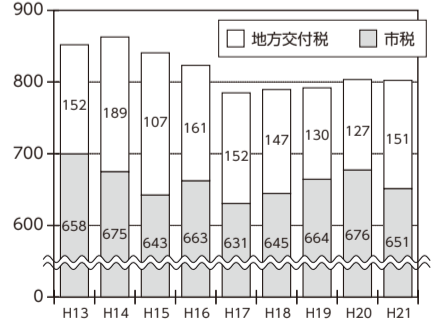
資料

横須賀市財政基本計画から

1面掲載の市議団の議会報告会で紹介された「横須賀市財政基本計画」。吉田市長が「財政危機」と叫んだずっと以前から市は市債残高削減、財政改善に取り組んできたことが示されています。



地方交付税が大幅削減



市の歳入の減少が小泉構造改革・三位一体の地方交付税削減が主原因であることも明確に示されています。市議団の主張が裏付けられた内容になっています。

訂正とお詫び

4月に発行しました「市民しんぶん170号」の2面の表の中の無会派の欄に一部間違いがありました。すでに正誤表は市議団のHPに掲載してあります。関係者の方には大変ご迷惑をおかけしました。改めて訂正と心からのお詫びを申し上げます。